

◎第40回ワークショップ開催報告

やはり、対面の話し合いは素晴らしいと再度、感じたワークショップ

森沢 猛 ワークショップ委員会委員長

2025年1月19日（日）、日本母乳の会主催の第40回ワークショップを東京都立産業貿易センター浜松町館にて対面開催しましたので、報告いたします。

今回のワークショップは「母乳育児危機の今、私たちはどこに向かうべきか」をメインテーマに掲げ、総勢20名の参加者で実施されました。5年ぶりの対面開催となり、参加者が集まるか心配もありましたが、総合病院、周産期センター、大学病院のBFH施設、大学、行政、助産所など多様な施設から、助産師、教員、保健師、行政職員、フリーランス、初期研修医、産婦人科医、新生児科医といった多職種の方々が参加されました。経験年数も1年目から35年のベテランまで幅広く、広い視点に立った議論が可能になったと感じました。

基調講演では、永山代表理事より大テーマに沿って、母乳育児逆風の中での母乳育児の意義についてお話しいただき、グループ討論への良い導入となりました。

グループ討論は4グループに分かれ、母乳育児に困難を感じる現代社会で、その原因や、どこまで母乳にこだわるか、母親の選択、父親の役割など広く抽象的なテーマについて議論しました。各グループは4～6名で構成され、非常に活発な討論が繰り広げられました。次々と意見が飛び交う雰囲気は、オンラインでは味わえない対面開催ならではの良さが出ていたと実感しました。

今回は発表スライド枚数を事前に通知した効果もあり、グループ発表も順調に進行し、討論の時間を十分に確保できました。対面開催の機会を活かし、全員が発言できるよう努めました。時間が足りなくなるほど、皆が積極的に意見を述べ、活発に質問していました。終了時に手渡しした修了証を受け取る参加者の元気な笑顔や、グループ内での打ち解けた雰囲気から、対面開催の素晴らしさを改めて確認しました。



今後の課題として、一見便利なリモート開催よりも対面開催に参加したいと、申し込み者が思ってもらえるような募集方法をどう実現するか、またBFH以外の施設からの参加者をどのように増やすかといった点が挙げられました。広報、開催時期、開催場所、開催形態を検討していきます。